

令和4年3月26日  
第4回防災活動意見交換会

### 会議冒頭のあいさつ

蔓延防止等重点措置が解除された中ですが、感染拡大の傾向は依然として昨年秋からのように急激な改善までは見られず、結果として今年最初のこの会議が今年度最後の集会となりました。

東日本大震災から11年が経過した去る3月16日の夜、最大震度6弱が東北地方太平洋側を襲い、新幹線の脱線、首都圏を含む各地で停電や断水が発生しました。お亡くなりになった方も僅かですがおられましたし、怪我人が全国では220名ほど出たとの報道でした。

今回の議題でも後ほど触れますが、この風早北部地域は大規模総合病院がないことで、災害拠点病院がないという市内でも数少ない「恵まれていない」地域であります。そのため、災害時に怪我をしないことが何よりであり、来年度はその点にも特化した防災活動を重点的に展開してまいります。

感染症との闘いは、依然として道半ばです。三回目のワクチン接種も今後ようやく拡大が進むことで、人の動きが活発となる新年度や春から夏の行楽シーズンにどう立ち向かっていくかが、引き続きの課題といえましょう。

皆さまにおかれては、既に来期役員へのバトンタッチが終わられた団体、これから来月以降がその時期である団体と様々ですが、感染症を免罪符に地域の防犯防災活動が「おざなり」となることで、確実にその街の地域力は低下し、生命や財産が容易に侵されることを教訓にされ、是非、継続して役員となられる方、後継に道を譲られる方は、是非緊張感を持ったご対応を何卒お願い申し上げます。5月下旬に予定します地域づくり講演会(今年2月予定が延期されたもの)は、まさにその課題に対峙する重要な情報をご案内できるものですので、奮ってご参加をお願いします(4月に配布される広報しょうなん第38号を是非ご覧ください)。

本日は、柏市地域支援課、沼南近隣センター、並びに、大津ヶ丘中学校からも代表の皆さまにご臨席をいただきましたのでご紹介申し上げます。

風早北部地域ふるさと協議会防犯防災部長 古山 博之